

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4171600639		
法人名	有限会社あすなる		
事業所名	有限会社あすなるグループホームまごころ	ユニット名	第二
所在地	長崎五島市富江町職人307-2		
自己評価作成日	2024年 6月 20日	評価結果 市町村受理日	2024年 8月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報 リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijeyosyo_index=true
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年 7月 2日	評価確定日	2024年 8月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所名のとおり「おもいやりとまごころ」を持ち理念に添ったケアを心がけている。ホームは自然に囲まれた静かな場所に立地し四季を感じながら豊かに過ごす事が出来、職員と入居者がお互いに尊敬し支え支えられながら日々の生活を送っている。行事ある毎にご家族、地域の皆様にご協力頂きながら地域社会の一員として充実した暮らしを続けている。毎日のレクリエーションを通して体力の維持と入居者間の交流も深めている。職員のスキルアップにも力を入れ、入居者・ご家族に信頼され喜ばれる施設づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、 不安なこと、求めていることをよく聴いてお り、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと 過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで 暮らしている (参考項目：38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業 所の理解者や応援者が増えている (参考項 目：4)	○
59	利用者は、職員が支援することで 生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ 出かけている (参考項目：49)	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目：30,31)	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に 応じた柔軟な支援により、安心して 暮らしている (参考項目：28)	○			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を大きな紙に書き常に見えるところに掲げている。全職員が理念を理解、共有し実践につなげている日常的に理念に沿った介護をしましよと指導を受けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	施設行事の際は地域の方々に参加して頂き交流している日光浴や散歩を通して近隣住民の方々と交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の場で認知症の人の行動の理解や支援の方法を話したり、相談にも応じている外部評価で得た、知識や情報も報告している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表、役所の方、ご家族の皆様に参加して頂き入居者やサービスの実施、評価への取り組み状況を報告、意見を伺いサービス向上に活かしている。今年度から訪問看護の担当看護師にも参加して頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者が市の担当者を定期的に訪問し事業所の実情を説明、報告している。市からの情報も得ている。運営推進会議にも参加して頂き協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時、内部研修で繰り返し、勉強会を行い全職員が理解している。身体的拘束は絶対にしないという強い意志を持ってケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束はもちろん。心理的虐待、ネグレクトにも受点を置き虐待防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前制度を利用していた入居者がおり、活用は出来ている。制度については内部研修で学ぶ機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時には、入居者、ご家族に十分な説明を口頭等で行い疑問点についても丁寧に説明し理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、自宅訪問、運営推進会議、電話をかけた時など機会があるたびに、入居者、ご家族に意見、要望を伺っている。玄関に投書箱を設置している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時、日常時、いつでも職員の意見、提案を聞く体制が整っている代表者、管理者、職員の関係性が近く離しやすい状態にある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し労働時間の希望も聞いてくれ個々の就業環境にあった条件の整備に努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合わせた研修の奨励と確保ができており、職員を育てる取り組みを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者より同業者との交流、相互訪問の提案はあるが、コロナ禍もあり実現出来ていないが、他事業所から転職してきた職員を通してサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談の中でこれまでの生活歴、嗜好、趣味などを聞きながら、困っている事、不安、要望に耳を傾け、本人が安心して生活出来る様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ち寄り添っている事不安な事要望等を聞きご家族が安心してサービスを利用して頂ける様に十分な話し合いを行い信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族との聞き取りに重点を置き今必要としている支援を見極め施設で出来る支援の提案もしながらサービス利用に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを共に暮らす家族と考えを一緒に食事したり、作業したり、運動したり共に過ごす時間を大切にしている。出来ない事は支援し出来るお手伝いをして頂きながらお互いに感謝の言葉が言い合える関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には定期的に携帯で写真や動画を送ったり送って貰ったりしてご家族との絆を大切にしている。贈り物が届いたときは必ず本人に電話して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室など馴染みの場所は本人の希望を聞き関係が途切れない様に支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーション・食事など全員で集合する時間がありコミュニケーションが生まれ支え合う関係も生まれている他者の体調を気遣い優しい言葉も掛け合っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方の経過をフォローし面会に行ったりご家族からの話を聞いたりして相談や支援に努めている。退所した方の家族がお花や野菜を持って来てくれる事もある。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の希望、意向を把握し出来るだけ希望を叶える支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプランと一緒に作成された基本情報やアセスメントを全職員が共有し馴染みの暮らし方、生活環境についても本人、ご家族より聞き取りをして把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活ぶりを注意深く観察し会話をして現状の把握に努めている心身状態を含め気付いた事は日常生活記録に記入している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は日常生活で得た情報を元に月に一回の個別モニタリング会議を行い、ケアマネに報告本人、家族、主治医、必要な関係者と話し合い意見を頂き現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録に日々の様子を個別に記入し就業前に記録に目を通すことで職員間で情報を共有、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所がいかにあるべきか本人、ご家族のその時々状況に対応して柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然豊かなところなので散歩、日光浴、花見、ドライブ等を楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の殆どが、地域の医療を担う富江病院を主治医にしており、月に一回の往診、月に一回の訪問看護を受けている。入居者の体調異常が見られるときは主治医に連絡し適切な指示、医療が受けられる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度から訪問看護師が月に一回、定期的に入居者を訪問することになり、より医療との連携が強まり適切な受診につながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人のADL状況、留意点を詳しく説明、文書で渡し、退院時には主治医、看護師より口頭で説明を受け看護サマリを頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、急変時に終末期のあり方について本人、ご家族に聞き取りをしている、重度化終末期には早めに再度、本人、ご家族、施設、主治医を交えて話し合いを行い主治医の指示のもと看取りケアもおこなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてはミーティング等で確認しており、対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防避難訓練を年二回実施し、内一回は消防署立ち合いで指導を受けている。全職員が参加している。自動火災通報システムを導入して近隣住宅への通報がされ地域との協力体制ができている。火災等を未然に防ぐために自主検査チェックを毎日行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を人生に先輩として尊重し個人の尊厳とプライバシーを守りながらその人合った言葉かけや支援をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を引き出す言葉かけをして常に自己決定出来る様に支援している。選択で迷っている方には職員本位にならず、本人の思いを大切に助言している。		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日をどう過ごしたいか本人の希望を聞き希望に沿った生活が送れるように支援している。一日に何度も散歩する入居者にも同行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは本人の自由に出来る様に鏡、櫛、化粧品等を居室に用意している。一日に何回も着替えをされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を担当した職員が献立を任されているので用意された旬の食材を活かしながら入居者の好みを聞いて食事づくりをしている。食材の下処理を手伝ってもらったり、テーブル拭きなどをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は本人の希望、普段の摂取量を考慮して提供している水分量は定時の水分補給を2回、夜間に水分準備、及び水分補給それ以外にも要望があるときには提供している。コーヒーや牛乳などを常飲していた方は入居後も習慣を続けて貰っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、個々の力に応じて本人がされたり、介助しながら必ず行っている。毎晩、入れ歯の洗浄を行い、週に一回コップ・歯ブラシを消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用で、早めの声掛けで排泄の失敗を減らす取り組みを行っている。夜間オムツの方も昼間はトイレでの排泄が出来る様に支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に食物繊維を多く含む食品を取り入れて野菜をたくさん使用している。水分摂取も勧め、排泄表を利用し排便の確認を行い便秘気味の方は便薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は決められているが、希望があれば入浴日以外でも入浴出来様に支援している。楽しみにしている入浴時間を大切にしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時々状況に応じて日中でも居室でゆっくり休息出来る様に支援している。自宅で使用していた寝具や枕を持ってこられた方もいる。温度や湿度にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、毎回手渡しをして服薬確認を行っている。お薬説明書で薬の目的、副作用、用法用量を理解し症状の変化を観察している。異常があればすぐに主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることのお手伝いを通して役に立つことの喜びを感じて貰っている。ぬりえ・カラオケ・散歩・人形の世話・犬型ロボットの世話などそれぞれの楽しみ事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には玄関先での日光浴・散歩をされており、気候に合わせて花見・ドライブに出かけている。ご家族と一緒に出かけるかたもいる		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方が自由にお金が使えるように支援している。買い物代金を職員が行い本人の希望を叶えているお世話になった片へのお礼や食べたいもの、必要な物を代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	送りが物が届いたときには本人に電話をかけていただき、直接お礼が言えるように支援している。LINEを利用しビデオ通話される方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音・光・色・湿度については不快にならないように調整し、配慮に努めている。季節毎には玄関や居室の入口を飾りつけ季節感が分かるように工夫している。季節に花も飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置きソファに座って会話されたり、好きなテレビを観たり食堂テーブルで作業。趣味。ゲームをするなど思い思いに過ごされている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には。写真・装飾品などをご家族持ってきていただき、飾られている。お花が好きな方はお花をいっぱい飾り、ラジオ・人形。犬型ロボットなどや、仏壇を置かれている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・フロアの手すりを付け安全に移動、自立に向けた歩行訓練が出来る様になっている。		